

特別養護老人ホーム ケアポート板橋

石黒 大輔 （包括 ／ 社会福祉士）

功 績 独居男性高齢者。肺気腫があるが、ご本人「治らないから」と受診、入院を拒否し続ける。介護保険サービスの利用にも消極的で、体調不良や生活費が足りなくなるなど、困ったときだけ当センターに電話連絡をしてくる状況。3年が経過し、徐々に病状が悪化し2度入院するも、ご本人希望で退院してしまう。呼吸の苦しきから「何もしてくれない!」「もう、来なくていい!」等の辛い言葉を浴びながらも、ご逝去されるまでの約1か月間、ご本人の尊厳を大切に質の高いチームケアをコーディネートし、ご本人の望む在宅での生活を支えきった功績。

推薦者氏名 鈴木 穰

推薦理由 クライアントの心の揺らぎをあるがままに受容し、必要な情報を適切な方法・わかりやすい表現を用いて提供し続けた。クライアントの自己決定を尊重し、クライアントがその権利を十分に活用できるように、忍耐強く親身に最期まで支援を続けた。

「何もしてくれない!」「もう、来なくていい!」といった言葉を浴びながらも、クライアントの背景にある“耐えられない辛さ”を深く理解し、3年9か月、あるがまま受容し続けた。クライアントの“かけがえのなさ”の自覚を共有し、SDGs“誰一人取り残さない”石黒氏の実践であった。

理事長賞に相応しい功績であると評価し、推薦させていただきます。

内 容

2022.9月に民生委員が心配して、当センターへ支援依頼があったケース。
中華料理屋の2階に住む身寄りのない独居高齢者。タクシー運転手の仕事をしていたが呼吸苦が激しくなり退職。肺気腫があるが受診を中断し、1日10本喫煙する。年金はあるが、住民税、社会保険料の滞納があり、金銭管理が不十分。生活費が足りなくなる、具合が悪くなる、郵便物の内容がわからないなど、困ったときだけ、当センターに電話連絡をしてくる状況であった。ご本人、疾患については「治らないから」と受診、入院を強く拒否する。年金支給日まで生活費が底をつき、当センターへ連絡が入ることが続くことから、2023.12月住民税、医療保険料、介護保険料の整理を、暮らしサポートセンターと連携し、依頼する。

2025.6月 呼吸苦が悪化し、食欲低下。訪問診療の利用について本人同意され、導入開始。同時に介護保険申請。（要支援1）

本人、訪問診療の拒否があり、介護保険サービス（訪問介護等）に至らない状況が続く。

2026.1月 自宅階段での転倒が続き、外出が困難となる。

同年3月、呼吸苦により配食サービスが救急車要請し入院。ご本人、リハビリ拒否、帰宅願望強く、入退院を2度繰り返す。

5月上旬、退院し、訪問診療、訪問看護、訪問介護、ケアマネがチームとなり、緊急時、救急搬送せず、訪問診療で看取ることとなる。

6月上旬 慢性閉鎖性肺疾患急性増悪により自宅にて永眠。

福祉部総務課援護係と連携し、葬儀屋がご遺体を引き取りに立ち合い、支援終了となる。